

— protect the coral reefs —

体感型海とサンゴの色彩展

・デザインコンセプト

私は海が好きなのですが、近年異常気象などで海の生き物の生活を支えているサンゴは世界中の3分の1が絶滅寸前と言われている事を知りました。中でもサンゴが海水温の上昇によって体内の共生藻という植物プランクトンを失って、白い骨格が透けて見える「サンゴの白化」が起こり、白化が続くとが死んでしまうという問題に特に関心を持ちました。

そこで「色鮮やかなサンゴの再生」をコンセプトとして「体感型海とサンゴの色彩展」を提案致します。SDGsの14「海の豊かさを守ろう」です。

白化の原因や保全活動、そして未来の世界を体感するデジタルアート展を提案します。

・開催場所

開催場所は、家族連れが日常的に沢山集まる場所として「イオンモール大日」内の1F吹き抜け空間で駐車場側の「サニーコート」にメイン会場を設置しました。また、メイン会場と反対側で駅側の「1F 駅前イオンスタイル大日入口」にウインドウディスプレイを設置することで電車と車双方のお客様から知っていただけるように考えました。

・開催期間

2022年12月17日(土)～12月31日(土)までの15日間で、冬に海のイベントをすることでインパクトが強く、お客様が多い時期なのでこの時期を設定しました。

・ターゲット

小さなお子様向けのイベントなので30代の親と3～7歳頃のお子様です。

・ウインドウディスプレイ

駅側の入口付近に設置し、入口側から見ると真っ白なサンゴに魚がいない海の世界が見え、進むにつれて徐々に色づき魚が増え、反対側まで進むとカラフルなサンゴと沢山の魚が泳いでいる海の世界が見えるようになっています。メイン会場で体感するストーリーを感じられるよう考えました。

・メイン会場の全体説明

メイン会場の外観はサンゴの「ポリプ」と呼ばれる個体をイメージしており、サーカスのテントをベースに天井の中心には口、周りは触手を配置しました。また、「サンゴの白化」をテーマとしている為外観の色は白、ライティングで色が変わるようにしました。会場は3つのエリアで構成されており、プロジェクターで大きなパネルに映像を映し出して世界観を体感するデジタルアート展となっております。

・1st ステージの説明

向かって右の入口から入ると1st ステージでテーマは「過去から現在」です。1950年頃から現在までのエネルギー転換で排出された二酸化炭素による温暖化で海の世界ではサンゴは白く、魚が減っていく変化を映像にしました。また、ステージの中心に配置した大きな煙突から白い煙を出すことで二酸化炭素の排出を体感し、室温も高めに設定することで温暖化を肌で感じれるようにしました。

・2nd ステージの説明

続いてメインの2nd ステージでテーマは「サンゴ保全活動」です。向かって左手の色塗りステージで白化したサンゴに長く触れることでサンゴに色をつけます。すぐに白くなりますが何度も繰り返すとサンゴが復活し、一部が反対面の移植ステージに飛び移植ができます。移植ステージがサンゴで埋まったらステージクリアというサンゴの保全活動を楽しく疑似体験できるエリアです。

・3rd ステージの説明

最後に3rd ステージですが、テーマは「20年後の未来」です。移植したサンゴが20年後に成長し、カラフルで魚がいっぱい集う未来の海と地上の世界を映像で表現しました。また、子供の影が大きくなる仕組みで大人になった自分の影を楽しめるようになっています。

・効果予測

- ・子供たちがサンゴに関心を持ち、綺麗な海を守る意識が芽生えることで未来へ保全活動を繋げる。
- ・親にも温暖化に対する知識を深め、CO2削減の推進やサンゴ保全活動への誘導に繋げる。
- ・出口を出たところにサンゴ保全活動への参加案内用パンフレットやサンゴのグッズを展示し、保全活動参加への誘導を更に促す。